

神奈川県金融経済概況（2013年3月分）

I. 概況

神奈川県は、下げ止まっており、持ち直しに向けた動きもみられている。すなわち、企業部門をみると、生産は下げ止まっており、持ち直しに向けた動きもみられている。輸出は引き続き減少しているものの、そのペースは緩やかにになっている。設備投資は持ち直している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境に弱めの動きがみられているなか、個人消費は底堅い動きとなっている。この間、住宅投資は持ち直している。公共投資はこのところ減少している。

金融面をみると、貸出、預金ともに増加傾向を維持している。

II. 実体経済

(1) 生産： 下げ止まっており、持ち直しに向けた動きもみられている。

- ・ 県内工業生産で大きなウェイトを占めている輸送機械は、トラックが増加していることを主因に持ち直している。この間、低調な乗用車についても、輸出向けを中心に持ち直しの兆しがみられている。
- ・ 素材関連は、デジタル機器関連の高機能材料が低調な状況を脱しつつあることや、鉄鋼などが持ち直していることから、総じてみれば緩やかに持ち直している。
- ・ 電気機械は、重電関連や自動車向け電子部品が堅調に推移する一方、薄型テレビ・パソコン向け電子部品が低調なことから、全体としては横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 一般機械は、海外の自動車・航空機向け工作機械が堅調なもの、はん用機械類が低調であることなどから、総じてみれば緩やかに減少している。この間、半導体等製造装置については、持ち直しの兆しがみられている。

(2) 輸出：引き続き減少しているものの、そのペースは緩やかになっている。

- ・ 海外経済減速などの影響により引き続き減少しているものの、そのペースは緩やかになっている。

(3) 設備投資：持ち直している。

- ・ 3月短観における12年度の設備投資の状況を見ると、製造業が4期振りに増加となり、全産業でも4期振りの増加となる見込み。13年度の投資計画は、製造業、非製造業ともに増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境：弱めの動きがみられている。

- ・ 2月の有効求人倍率は、前月比横ばいとなったほか、1月の現金給与総額は、前年を下回った。

(5) 個人消費：底堅い動きとなっている。

- ・ 大型小売店売上高は、食料品が弱めの動きとなっているものの、春物衣料品が好調だったほか、高額商品も伸びており、底堅い動きとなっている。
- ・ 家電販売は、白物家電が好調なものの、テレビ部門の落ち込みが続いており、全体としては横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 乗用車販売は、新車投入効果などから、持ち直している。

《参考》

- ・ 県内ホテル・旅館の稼働状況をみると、持ち直しの動きが続いている。

(6) 住宅投資：持ち直している。

- ・ 横浜や川崎エリアの分譲マンションを中心に需要が底堅く推移している中で、住宅着工戸数は、持ち直している。

(7) 公共投資：このところ減少している。

- ・ 3月の公共工事請負額は、4カ月連続で前年を下回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 増加傾向を維持している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、不動産・住宅関連向け貸出が好調なことに加え、経常運転資金を中心に、その他大手法人向けにも動意がみられることなどから、増加傾向を維持している（貸出末残前年比：1月1.2%→2月1.1%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、低下傾向を辿っている（月末貸出約定平均金利前月差：1月▲0.006%ポイント→2月▲0.011%）。

(2) 預金： 増加傾向を維持している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金で順調な増加が続いていることなどから、増加傾向を維持している（実質預金末残前年比：1月+2.3%→2月+2.6%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。